

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 15日

事業所名 しあわせ駅糸島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		長期休暇中は柵など活用し、スペース分けなど行い、安全に配慮している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		子と職員割合2対1の配置を心がけている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		段差をなくすよう工夫している。	利用者の安全を第一に配慮や改善が必要な点が見つかった際は早々に対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		改善点がみつかった時は早々に対応を心がけている。	職員同士で話せる時間をもっと作る努力をしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表以外にもペアレント研修等の際、アンケートをとる等保護者のニーズを図るよう努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていない。今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に職員研修を行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		アセスメントは行っているが、特別なツールは使用していない。今後検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		個別支援内容において変化をつけるよう努めている。	集団・個別に分けて活動プログラムをたて、固定化しないよう継続して努めていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		夏休みのプールや季節の行事に合わせてイベントを行っている。	状況に応じてその場で決めることも多いため、起案書など活用しできるかぎり見通しをたてて細やかな支援ができるようにさらに努めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			基本的に行われているがシフト的に参加出来ないこともあり、十分とは言えない。確認・伝達の徹底に努めていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			その日起こったことなど伝達共有は行っている。改善や話し合いなど必要な点が見つかった際は後日ミーティングや研修の際に行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	保護者を通じて必要な事を聞くことはあるが、直接とすることは今のところしていない。	現在、対象となる児童はいないが、必要な際は行う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要な事があればとる。又は問い合わせがあれば対応するが、今のところほとんどない。	今後必要があれば行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		必要な事があればとる。又は問い合わせがあれば対応するが、今のところどちらもない。	今後必要があれば行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		外部研修の一環として参加したり、必要な際は研修を依頼するなど努めている。	今後も積極的に取り入れていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ渦だったことやニーズも低いため、現状行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		毎回会議へ参加し、情報共有や協力関係を築けるよう努めている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳、LINEなど活用し、共通理解に努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		年2回ほどを目安に様々な研修内容が組めるよう努めている。	保護者のニーズに合った内容を取り入れて計画出来るよう努めていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時にお話している。問い合わせがあった際も対応している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳・送迎時・TEL等でお話を聞き、アドバイスやフォローに努めている。	必要であれば時間を作っていただき、相談や必要な支援を行えるよう共通理解の場を設けている。今後も利用者並びに保護者のフォローに努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		ペアレント研修後に茶話会などを設け、保護者間を繋げられるよう努めている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や問い合わせにも早々に対応できるよう努め、必要な際はこちらからお声かけさせて頂くなどしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		LINE・ブログ・インスタなども活用し、情報や様子など保護者に様子が伝わるよう心がけている。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		LINEや電話、連絡帳など利用し、伝達に努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		○		コロナ渦だったことやニーズも低いため、現状行っていない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所内研修にて周知やロールプレイを行うなど訓練している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回の避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		マニュアルを策定し、事業所内研修等で周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		マニュアルを策定し、事業所内研修等で周知している。	現在、対象となる児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者からの指示に従っている。	現在、対象となる児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットが大きな事故に繋がることもある為注意して支援にあたっていく。